

OKINAWA DARC MESSAGE

Q S K



沖縄ダルクからのメッセージ

No122

2016年7月



パシフィックホテルにてエイサー演舞 6月24日

真っ青な海と空。南国沖縄は、夏真っ盛りとなりました。
仲間たちは各々、ビーチレクリエーション、エイサー練習と本番、屋外のボランティア、サーフィン、造園業の仕事、みんな真っ黒に日焼けをし、とても生き生きと凛々しく映ります。
法人事業所「サントウアリオ」の移転から1年、法人の2度目の決算も大きな問題もなく無事終わりました。 煩雑な業務を不慣れな中でまだまだ課題はあるもののスタッフ達の頑張りのおかげです。
旧デイケアの改修も終え、この夏からは 仲間達の新たな居場所「クレアドール」として始めていききたいと考えています。
ワクワクが始まる夏。このワクワクが仲間達の回復に連鎖していきシラフの幸せを分かち合いたいと思います。

ハイヤーパワーに感謝です

2016年7月1日

沖縄ダルク 代表 森 廣樹 (かげとら)

P1 代表 森の挨拶
P2 仲間の体験談他
P3 新聞掲載
P4 活動報告

P5 活動予定、報告
P6 献金、献品報告
付録 新規会員募集

発行元：
九州障害者定期刊行物協会
福岡県福岡市中央区天神1-16-1
編集：沖縄ダルク

回復を続けて タロウ

アディクトのタロウです。

3年前、自分は沖縄ダルクに繋がりました。14歳の頃から薬物使用を始め、約20年間は薬物をコントロールしながら生活していました。正確にはコントロールしている気でいました。自分が主に使用していた薬物は大麻・サルビア、現在では合法化が進んでいる国も多くあります。自分が沖縄に繋がった切っ掛けになった薬物は、世間を騒がせた「危険ドラッグ」なのですが遅かれ早かれ生活崩壊は訪れていたと思います。危険ドラッグを使用していた期間は約6ヵ月、本当に短い期間ではありましたが他の薬物を使用していた期間（約20年間）と比較できない程の早いスピードで身体や精神が壊れました。沖縄の施設に繋がる間際には人としての生活を送れていませんでした。

自分の幼少時代は幸せな家庭に生まれ、しつけや教育も人並み以上にしてもらった記憶があります。同時に父親に憧れていた自分も覚えています。小さい頃から親父が好きで、いつでも親父の喜ぶ顔が見たいと思っていました。その為、気が付いたら色々な人の顔色をうかがいながら生活する癖がついていました。両親の前では良い子を演じ、思春期で反抗期が訪れても両親の前では「不良」はしませんでした。両親の前では「不良」はせずとも、それ以外の場所では悪い事を覚えていきました。薬物もその一つです。手を出した切っ掛けは憧れていた先輩が使用していた大麻と一緒に使用した事が切っ掛けですが、初めて使用した時は悪気はありました。物凄く怖かったのを覚えています。しかしながらその恐怖心は日々薄れていき、高校に上がる時には大麻も常用する生活になっていました。それからは今思えば大麻中心の生活をしていたと言っても過言ではなく、バイト代も薬物を買うため、アメリカ留学も薬物ありき、その後社会人として生活する上でもいつも大麻がありました。大麻やサルビアならば自分は何でもわかるし、使用しながら仕事もできるし運転だってできる。そんな風に思っていました。少しずつ人生が傾き始めている事にも気が付きませんでした。そんな中、友達が危険ドラッグを扱う店を始めました。その友達には昔から良くしてあげていた為、危険ドラッグを購入ではなく譲渡してもらおうという日々が始まりました。それが施設に繋がる6ヵ月前です。人生の傾きは物凄い速度で降下していきました。救急車で搬送される事3回、実家の部屋で突然大きな声で叫んだり、床のコンセントを口に頬張り嘔みしめ、白目を向きながら痙攣している姿を両親に見せてしまった事もありました。その度に「もう止めなければダメだ」と思うけれど、思いとは裏腹に身体は薬物使用を続けていました。両親はそんな自分を見て困り果て、狼狽し、家庭全体が真っ暗な闇に包まれていきました。そんな状況にあっても自分は一日中部屋から出る事はなく、真っ暗い部屋のベッドの上で薬を使いながら異常な行動ばかりしていました。部屋の外に出るのは近所のコンビニエンスストアに薬物を貰いにいく時だけです。友人は近所まで薬物を持ってきてくれていたので、その時自分が「何としてもしなければならぬ事」はそれを手に入れる事、それだけでした。3度目に部屋で暴れた挙句、救急搬送された時に両親から施設に行く事を勧められました。自分も「止めたい」という気持ちに嘘はなかった為、薬物を再度使用する前に沖縄に繋がりました。あれから3年が経ちました。もう一生薬物を使用しませんという保証はありません。一生かけて回復する責任が自分にはあります。当時の自分と同じ気持ちで助けを求めてくる仲間が後をたちません。現在私は施設の職員として少しでも「仲間達」の手助けができるよう心掛けています。それが自分の回復に繋がる事、薬物の再使用を抑止出来る事だと今の私は知っています。

2016年4月28日に行われたDV防止について考える講座で
講演した仲間へ沢山のメッセージが届きました。

沖縄に繋がった時は孤独でした。
仲間支えて貰い3年間やって来れました。
今回メッセージをたくさんの方に聞いて貰えま
した。これからも応援よろしくお願いします。



体験談を話したリョウセイ

2016年(平成28年)5月2日(月)
沖縄タイムス 社会面

「暴言・威圧的態度もDV」
那覇で防止講座 加害男性語る

ドメスティックバイオレンス(DV)の防止を考
える講座が4月28日、那覇市
の県総合福祉センターで開
かれた。DV加害者の男性
(38)が薬物に依存し、家族
や友人を傷付けてきた半生
を振り返り、「直接手を出す
ことだけでなく、暴言や威
圧的な態度もDVだと今に
なつて分かった」と語った。
更生保護法人が主催する
沖縄DV加害者更生相談室
が主催。昼と夜2回の講座
で当事者や支援者など約1
10人が耳を傾けた。
男性は京都市出身で、中
学生の間から覚せい剤を
使用。少年院の入退院と刑
務所での服役を計6回繰り返
した。20歳で暴力団に入
り、25歳で結婚して1年後
に子どもが産まれたが「当
時は何とも思わず、産婦人
科のカレーでクスリをや
っていた」と振り返った。

2度目の服役中に妻子はい
なくなっていた。
3年半前、薬物依存回復
支援施設の沖縄ダルクに入
所し、自分を見つめ直すま
つになった。DVについて
考える講座に参加し、被害
者の体験談を聞くうちに、
自分が家族や周囲にしてき
た行為がDVだったと気付い
た。「まさに自分のして
きたことを突き付けられ
た。心が痛む」ということを
初めて知ったという。
「クスリをやめて自分の
人生をまきたいと思っただ
けだ」

DV加害者として体験語る男
性(中央) 川島 誠司(右)、那覇
市・県総合福祉センター

DV加害者という過去は消
えず、楽にはなれない。残
りの人生で変わり続け、二
度と暴力はしないと約束し
て生きていきたい」と心境
を語った。
がじゅまる沖縄の名義者
であり、研究員は薬物依存者
DV加害者の共通性として
「誰でもやめたい、変わ
りたいという気持ちはある
が、踏みとまり、変わ
り続けられるかどうかは問
題」と指摘。「彼は暴力と
いう表現方法しか知らな
かったが、相手のことを考
えなければ人間関係は築け
ないことを学んだ。人間は
自分が変わりたいと思えば
変わる」ということを多く
の人に知ってほしい」と話
した。

○今月の体験談はとても感動しました。

変わり続けている姿に涙が出ました。これからもずっと応援しています。

○人は変わろうと覚めることでスタートかもしれないと思いました。私も数年前によく泣いていたことを思い出しました。

○変わり続ける姿に本当にうれしく思います。自分を偽らない姿にカッコイイです。なんだかうれしくて涙が出てきました。嘘がないって本当に素敵です。

○今月は参加してとても良かったです。昼間も参加して両方聞きたかったなという気持ちです。

親の気持ちになって聞いていたので、今親に対して思っているのかとか気になっていましたが、質問時にそれも聞けたので良かったです。「親を恨んでいない」という言葉にホッとしました。

○ダルクという場所があるという事はすごいなと思います。良い講演会でした。話して下さった男性にこれからも道を探して進んで欲しいなと思いました。辛い過去を話してくれたことに感謝の気持ちをささげます。

○今日は体験談を聞いてすごく良かった。苦しい過去、悲しい過去っていうのは、最後には生きるんだなと思いました。

○今日は初めてDV(加害者体験者)体験を聞かせて頂きました。様々な体験をしながらも薬物から逃れられない中、彼が何によってここまで変わったのか、本人の口からはあまり詳しく語られていませんでしたが・・・自分の更生を信じている周りの方の支えがあったからなのだと思います。とても素直な方との印象がありました。体験談の中に「自分を救っていくのは自分である」という事を話していました。それは人間みんな同じ状況だと思います。

沢山のメッセージ有難うございました。今後ともご支援ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします

スタッフ 岸本裕樹(リョウセイ)

水納島キャンプ

毎年恒例の水納島キャンプに行ってきました。2泊3日の旅行でしたが、天候はあいにくの雨でしたが、それでも海水浴や貝殻を拾って楽しんでいた仲間もいました。



クレアドールの改装が終わりました！



皆様の温かなご支援により沖縄DARC「クレアドール」の全面改装工事が無事に完了しましたので報告いたします。内装を一新し、中古ではありますがゆったりと座れる大き目のソファを購入し長椅子のクッションを張り替えるなど、おかげさまで新しく来る仲間達を迎え入れるための環境を整えることが出来ました。改装工事の目的を達成することが出来たと思います。ここ沖縄ダルク「クレアドール」で回復したいという気持ちを持ってもらえるのではないかと思います。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（クレアドール献金総額1,854,000円頂きました）

スタッフ 長久保剛（オギクボ）

6月活動報告

1日 (水) 大麻・けし撲滅運動乱用防止講習会	講師 森 廣樹	浦添市てだこホール
3日 (金) 家族相談会		品川プリンス
4日 (土) 三河ダルクフォーラム		豊橋芸術劇場
5日 (日) NA運営委員会		ジャパンセントラルオフィス
7日 (火) ~13日 (月)		
宮崎ダルク合同プログラム		
10日 (金) ~12日 (日)		
水納島キャンプ		水納島コーラルリーフ
16日 (木) 学習発表会		沖縄女子学園
17日 (金) 治療共同体研究会		東京国立精神神経医療センター
18日 (土) ~20日 (日)		
RSC		東京船員会館
26日 (日) 障害者アーチェリー大会 開会式エイサー演舞		パシフィックホテル

7月活動予定

2日 (土) デイサービス竹園エイサー演舞		デイサービス竹園
3日 (日) 家族相談会		品川プリンス
4日 (月) 久里浜少年院面接		久里浜少年院
5日 (火) 石垣家族会参加		八重山保健所
5日 (火) ~ 11日		
宮崎ダルク合同プログラム		
8日 (金) ボランティア団体助成金交付式		宜野湾市社会福祉センター
11日 (月) 上本部中学講演 講師 森 廣樹		上本部中学
14日 (木) 沖縄少年院意見発表会		沖縄少年院
15日 (金) 読谷村青少年健全育成協議会講演 講師 森 廣樹		読谷村文化センター
17日 (日) 茨木ダルクフォーラム		結城市アクロス
20日 (水) アデイクション連絡会議		精神保健福祉センター
21日 (木) 社会を明るくする大会 講師 森 廣樹		宜野湾市民ホール
21日 (木) ・22日 (金)		
沖縄病院夏まつり下準備ボランティア・夏まつり		沖縄病院

第1土曜日 家族の会	サントウアリオデイケア
第1水曜日 ビギナー向け家族教室	サントウアリオデイケア
第3火曜日 家族教室	北谷保健相談センター
毎週金曜日 ヨーガプログラム	大謝名公民館
毎週金曜日 ボランティアの日	デイサービス竹園 (清掃) ・ 特別養護老人ホーム森城 (清掃)
	金武バプテスト教会 (清掃) ・ 那覇バプテスト教会 (清掃)
	ミミズク農場 (弁当作り手伝い) ・ 特別養護老人ホーム光が丘 (清掃)
毎週土曜日 ウチナーファーム エイサー演舞	

緊急告知のお願い

内地では梅雨がが続いている中、沖縄は梅雨が明け暑い日が続いています。夏真っ盛りです仲間も真っ黒に日焼けしています。そんな中送迎車両がエアコンの故障・エンジンのトラブル等で動かなくなり、修理しなくては動かない車両が3台も有ります。今は好意にしている修理屋さんが無理を言って車を借りていますが、何時までも借りれる訳もなく修理するか買い替えるかの選択を迫られている中、高額の修理代を捻出できなく弱っています。そこで皆様にお願ひがあります沖縄ダルクに車両を修理・購入できる資金をご支援して頂きたくお願ひ致します。大変心苦しいお願ひですが、何分ご理解にの程宜しくお願ひ致します。

スタッフ 松本昌一 (タカ)



支援者の皆様方へ



沖縄ダルクへの献金、献品を頂いた方々ありがとうございます
心より感謝申し上げます

5月25日～6月25日到着分の献金

加藤郁雄 ゲンティスアンフン 森下幸子 本部中学校 稲村幸子 服部吉矩 ニコル麻莉子
那覇日経ビジネス（長濱克実） 石川清司 有江文子 (株)沖縄歯科器材 吉村正夫法律事務所 小野里篤美
沖縄中央病院（久場貞三） 薬物乱用防止教会 大友 栗山 (有)知念産業 平良 南部商業高等学校
九州身体障害者アーチェリー選手権 小池和弘 宜野座哲 荻野恵美子 キリスト教大学 長久保江世
富田安世 玉城志保 小田桐美穂子 仲谷三好 立松薫 高山順一 ヒューバ和恵 中村綾子
中村澄子 (有)沖縄サンコースト 沖縄ダルク家族の会 その他多数の匿名の方（順不同・敬称略）

5月25日～6月25日到着分の献品

富田安世 ナリ 栗山 大淵信子 福島孝則 ミカサ ニコル麻莉子 内間 由美子 茶畑良子
黒川菜々子 武村福美 ミーコ デイサービス竹園 琉球ガイヤ 彩也音 沖縄ダルク家族の会
その他多数の匿名の方（順不同・敬称略）

5月25日～6月25日の献金合計 ¥529,550-

◎『沖縄ダルクを支援する会』新規会員募集のお知らせ。（別紙付録をご参照下さい）

◎”お陰様で、4人が新しい寮で生活を始めました”（カーサヴェルデ）

引き続き女性ハウス運営にご支援宜しくお願い致します。

何時もの事で大変心苦しいお願いですが、献金・献品（車・家具・家電・食料等）をお願い致します。

発送作業簡素化のため郵便振替用紙は皆様全員に同封させて頂いております。ご理解の程お願い致します。
また、お手数ですが匿名希望の方はその旨を通信欄に、その都度ご記入下さりますようお願い致します。

ホームページ『沖縄ダルク』<http://okidarc.or.jp>
facebookでも活動の様子をご覧になれます。『沖縄ダルククレアドール』・『沖縄ダルクサントウアリオ』と検索してください。

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

定価 100円（会費に含む）

郵便振替口座 01770-1-142380

編集 沖縄ダルク
〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐1-7-19
TEL (098) 893-8406 FAX (098) 917-2560
Eメール daycare@okidarc.or.jp
アドレス <http://okidarc.or.jp>

沖縄ダルクを支援する会

発行：九州障害者定期刊行物協会 福岡県福岡市中央区天神1-16-1 7F

『沖縄ダルクを支援する会』 新規会員募集のお知らせ

28年度より新しい形（自動振替用紙にて毎月決まった金額を振替え）で『沖縄ダルクを支援する会』の会員を募集致します。沖縄ダルクでは、随時会員を募集しております。沖縄ダルク・クリアドールは慢性的に運営費が不足しております。どうか『沖縄ダルクを支援する会』の会員になって頂き沖縄ダルクの活動をご支援いただけないでしょうか。クリアドールは公的な資金援助がありませんので宜しくお願い致します。

月一口1000円からのご支援お願いします。（一口でも大変ありがたいです）

会員特典

毎月、沖縄ダルクニュースレターと日本ダルク本部DMC新聞を発行月に送付致します。また、年数回のイベント、セミナー等のお知らせを致します。

（下記のお申込み用紙にご記入の上、郵送して頂くか、FAX・お電話でお申し込み下さい。おricえし**自動振替利用申込書**を送付させていただきます）

切り取り

お申込用紙

下記の住所へこの申込み用紙に必要事項をご記入いただきお切り取りいただきご送付ください。

お名前	
ご住所	
お電話番号	口数

沖縄ダルク クリアドール
〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐1-7-19
TEL098-943-8774 FAX098-943-8281
お気軽にお問い合わせ下さい。担当 長久保